

平成30年度

自己点検・自己評価報告書 目次

表紙

平成30年度自己点検・自己評価について

- 自己評価項目
- (A) 教育理念・目的・人材育成像
  - (B) 学校運営
  - (C) 教育活動
  - (D) 生徒指導等
  - (E) 学修成果
  - (F) 生徒・学生支援
  - (G) 教育環境
  - (H) 生徒・学生募集
  - (I) 財務
  - (J) 法令等の遵守
  - (K) 社会貢献・地域貢献
  - (L) 国際交流

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

## 平成30年度自己点検・自己評価について

本校では、平成25年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、教職員が本校の理念、目標に照らして自らの教育活動を評価し、改善することによって、職業教育の質の補償・向上に組織的に取り組みました。また、平成27年3月に文部科学省における職業実践専門課程の認定を受け、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、更なる企業等との連携を深め職業教育の充実を図るとともに、平成30年度も実施致しました。

### 1 対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

### 2 実施方法

学内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に実施しております。

「自己点検・自己評価委員会」

委員長 角堀雅信 校長

委員 早川昌幸 進路指導部長

中村 大 教務課長

杉浦 彰 総務部主任

服部幸弘 財務担当

### 3 自己評価項目

自己評価は、以下の12項目について実施しています。

- (A) 教育理念・目的・人材育成
- (B) 学校運営
- (C) 教育活動
- (D) 生徒指導等
- (E) 学修成果
- (F) 生徒・学生支援
- (G) 教育環境
- (H) 生徒・学生募集
- (I) 財務
- (J) 法令等の遵守
- (K) 社会貢献・地域貢献
- (L) 国際交流

### 4 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切      3：やや適切      2：やや不適切      1：不適切

平成30年度

自己点検 自己評価報告書

令和2年1月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

| A、教育理念・目的・人材育成像 |   | 評価点 |
|-----------------|---|-----|
| A-1             | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界、保護者等に周知されているか | 4   |
| A-2             | 各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか   | 4   |

| A-1                   | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか  | 評価点 |
|-----------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 学校の教育理念、目的、育成人材像、特色、将来構造については、学生保護者にはオープンキャンパス等の講習会、入学式及び保護者通信等で周知されている。業界関係者等には、毎年開催されるオーナー研修会等で挨拶において周知されている。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 学生においては、入学学生は入学式等で周知しているが在校生においても、新年度合宿、湯の山研修合宿等の場において更なる周知が必要である   |     |
| 参考資料                  | 学生パンフレット、学生募集要項、保護者通信   |     |
| A-2                   | 各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 業界のニーズを発掘する場所として「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」における委員の方々からの意見を取り入れ、本校の「カリキュラム編成委員会」において、業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っている。        | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速にすることが重要である。その為には、業界、他校の情報収集を図るような取組みが必要である。                                |     |
| 参考資料                  | シラバス、年間カリキュラム表  |     |

| B、学校運営 |                                      | 評価点 |
|--------|--------------------------------------|-----|
| B-1    | 目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか | 4   |
| B-2    | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか            | 4   |

| B-1               | 目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか   | 評価点 |
|-------------------|--|-----|
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 目的に沿った運営方針、経営方針の沿った事業計画は策定されている。事業計画においては、年度初めの全職員会議の場において教職員全員に周知している。事業計画に基づいて各部署、各個人において目標を立てている。目標については、個人面談等で進捗状況を確認している。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 事業計画に沿った目標意識は向上しつつある。今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。   |     |
| 参考資料              | 事業計画書  |     |
| B-2               | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか  | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているかについては、学籍、成績、欠席の管理システム、入学希望者管理システム、就職先企業管理システムがあり、それぞれのネットワークは情報セキュリティの理由でアクセス権を区分している。セキュリティの強化も行われた。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | コンピューター業界は日進月歩であり、更なるセキュリティの強化が必要である。  |     |
| 参考資料              |  |     |

| C、教育活動 |                                 | 評価点 |
|--------|---------------------------------|-----|
| C-1    | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4   |
| C-2    | 職員の能力開発のための研修等が行われているか          | 4   |

| C-1                   | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか  | 評価点 |
|-----------------------|--|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 教育課程編成委員会を開催し委員からの意見を参考に、毎年、教育課程の編成を行っている。各学科においては、実習カリキュラムに重点をおいた編成となりつつある。業界のニーズに沿った人材育成のカリキュラムも導入している。                                | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 「教育課程編成委員会」「カリキュラム編成委員会」等を中心にした高度の教育課程の編成が望まれる。  |     |
| 参考資料                  | 教育課程編成委員会議事録   |     |
| C-2                   | 職員の能力開発のための研修等が行われているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 教員研修においては、生徒指導の研修を「ID研修」、実技習得の研修は業界人における研修を実施している。「ID研修」年6回の研修を実施した。実技に関する研修は各学科において個別に開催を実施した。また、月に1回開催される「教員会」において学生指導に対する意識の統一を図っている。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 研修においては、マンネリ化の無いように新たな研修の導入も必要である。研修においては、マンネリ化の無いように新たな研修の導入も必要である。   |     |
| 参考資料                  | 「ID研修資料」   |     |

| D、生徒指導等 |                          | 評価点 |
|---------|--------------------------|-----|
| D-1     | 基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか | 4   |
| D-2     | 生徒の安全管理の為に取組が行われているか     | 3   |

| D-1               | 基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか  | 評価点 |
|-------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 毎年度実施している新入生合宿・新年度オリエンテーションの場において、基本的な生活習慣の指導や学生毎に年間を通しての目標設定を掲げその実現に向けて取り組んでいる。また、月・水・金曜日のショートホームルームにおいて学生の状況把握と適切な指導をしている。              | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 面談を通し、学生個々に細かい指導をしていくことが必要である。また、課長をはじめ学科全体で情報を共有し、関係する教員が共通認識を持つことが大切である。  |     |
| 参考資料              | 新入生合宿の資料、新年度オリエンテーションの資料、出席簿、週間報告書  |     |
| D-2               | 生徒の安全管理の為に取組が行われているか  | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 防災体制は構築されている。施設の点検も専門業者に委託し安全性を確立している。防災訓練についても毎年実施している。遠方からの学生が多いことから、民間の学生寮や信頼のある不動産業者を斡旋している。アルバイトについては、許可制をとっており就業先や勤務時間等の確認や指導もしている。 | 3   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 防災については、地震や火事等に備え、学生教職員の防災意識を高める必要があり、危機管理マニュアルの作成が急務である。   |     |
| 参考資料              | 防犯管理点検記録、学生寮案内パンフレット、学生アルバイト届   |     |

| E、学修成果 |                       | 評価点 |
|--------|-----------------------|-----|
| E-1    | 就職率の向上、退学率の低減が図られているか | 3   |

|     |                                   |   |
|-----|-----------------------------------|---|
| E-2 | 卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか | 3 |
|-----|-----------------------------------|---|

| E-1                   | 就職率の向上、退学率の低減が図られているか   | 評価点 |
|-----------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 卒業予定者には、その前年度実施の進路ガイダンスにて進路を決めるための心得や企業の見方などを説明し、ミスマッチが起きないように意識させている。また、求人票の記載事項（条件面）のみで応募することなく、採用試験に望む前には必ず企業訪問に伺うことをさせている。<br>退学率減少のためには、学生の心理診断を活用した指導を心がけ、担任が面談にて観察と適時な指導を実施している。 | 3   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 学業不振者や生活素行不振者の対応を早期に行い、学生の取り組むべき課題を明確にする必要がある。<br>担任の面談が学生の退学意識が固まった段階で実施されて報告書が上司に回覧されてくる傾向が強いので、早期の面談実施と保護者への連絡を密にした対応が必要である。   |     |
| 参考資料                  | 就職実績一覧（当該年度のもの）、担任による学生面談記録用紙   |     |
| E-2                   | 卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 卒業後1年経過時にアンケート調査を行い、仕事内容や仕事状況を記入してもらい、それに対する自分自身の不足事項が何かであるかを振り返り、本校に知らせてくるように働きかけている。<br>回収率は約6割。  | 3   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 進路指導部からの質問項目だけでなく、教務部からの質問項目も選定したアンケート内容に変更するなどして、在学中の習得内容や方法、学習内容や手法の改善に活かす工夫が必要。  |     |
| 参考資料                  | なし。   |     |

| F、生徒・学生支援 |                                  | 評価点 |
|-----------|----------------------------------|-----|
| F-1       | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか           | 4   |
| F-2       | 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4   |

| F-1                   | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか   | 評価点 |
|-----------------------|--|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 進路指導の年間計画を立て、卒業予定者はその前年度の2月から4月にかけて意識アンケートやガイダンス、卒業生講話や個別面談を実施。自らのキャリア形成プランを考える機会を多く与えている。<br>その上で、会社説明会の参加や企業訪問を奨励して促し、学生の大半が夏休みまでに活動を具体化させられている。<br>ハローワーク実施の面談対策講習への参加や履歴書指導なども順次行い、希望職種への就職内定率の向上が図られている。<br>企業に対しては5月には求人票と内定までの進行表を送り、求人票の回収と内容を綿密にやり取りする関係を築いている。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 特になし   |     |
| 参考資料                  | 企業向け内定までの進め方表、求人票、学生個別カルテ  |     |
| F-2                   | 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | AO入試にエントリーして早期に入学許可となる生徒に対しては『入学前教育』を行っている。内容は基礎学力と学科ごとの基礎的な音楽や楽器の知識を身につけられるように設定しており、基礎学力では特に漢字を小学生の学習範囲から始められるようにし、個人レベルに応じて取り組みをさせている。加えて音楽や楽器の基礎知識を身につけ、鑑賞能力を高められる下地作りを課題を通して行うことで、職業意識を早期に立てて、キャリア教育につなげるようにしている。   | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 入学予定者の学力レベルや音楽知識の差があるので、入学前のモチベーションUP維持に工夫が必要。   |     |
| 参考資料                  | 入学前教育の各自の提出物   |     |

| G、教育環境 |  | 評価点 |
|--------|--|-----|
| G-1    | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか             | 4   |
| G-2    | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか | 4   |

| G-1           |   | 評価点 |
|---------------|---|-----|
| 現状認知・評価等とその根拠 | 教育目標の効果的な達成を念頭に置き、学校内の設備の巡回を行い安全な教育環境を整備している。昨年度の9月に新館を新築し、教育環境を整えた。また、来年3月に新校舎(新本部棟)が完成しさらに教育環境を充実する予定である。   | 4   |
| 今後の課題とその解決方法  | 来年3月の新校舎完成とともに、施設設備を充実させる。  |     |
| 参考資料          | 新本部棟建築計画  |     |
| G-2           |   | 評価点 |
| 現状認知・評価等とその根拠 | 学外の実習施設として、湯の山研修センターを構え毎年、学生が集団行動の大切さを学ぶとともに、技術習得を行っている。インターンシップ実習においては、ピアノ調律科が名古屋経済大学インターン、管楽器リペア科が名古屋市小中学校インターンを実施。海外研修では音楽サービス創造学科がアメリカ研修、弦楽器製作科ギター・クラフトコースが中国研修を実施している。 | 4   |
| 今後の課題とその解決方法  | 企業インターンシップ実習の開拓と学生の積極的参加。海外研修においては、事前学習を怠らないことが大切である。   |     |
| 参考資料          | 湯の山合宿研修資料、インターンシップ実習記録報告書、海外研修資料報告書。  |     |

| H、生徒・学生募集 |                                     | 評価点 |
|-----------|-------------------------------------|-----|
| H-1       | 高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか    | 4   |
| H-2       | 学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか | 4   |

| H-1               | 高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか  | 評価点 |
|-------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 入学者数の比重の大きい東海4県、北陸3県および長野県を中心に高等学校訪問を行い、情報提供に努めている。「中部楽器通信」というDMにて本校の学習内容や受験情報を高等学校にも発信を前年度から継続し、学生広報委員が自ら作成した学習レポートを導入し始め、実態がよくわかると好評価を得た。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 学生広報委員が作成する学習レポートを、内容や写真を駆使して作成できるスキルUPの指導が必要。  |     |
| 参考資料              | 中部楽器通信DM、学生広報委員の学習レポート  |     |
| H-2               | 学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | オフィシャルHP、リーフレットにて正確な情報の伝達をしており、オープンキャンパスでも全体向けガイダンスや学科別でのガイダンス内容に必ず情報伝達をしている。地域性や業種別などの細かな情報については、個別相談などにて対応。                               | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 特になし。   |     |
| 参考資料              | オフィシャルHP、リーフレット   |     |

| I、財務 |                          | 評価点 |
|------|--------------------------|-----|
| I-1  | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか     | 4   |
| I-2  | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4   |

| I-1               | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか  | 評価点 |
|-------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 中長期的な財務基盤においては、本法人の正味資産及び基本金ともに増加しており安定している。監査体制については、監事による監査が確立されており理事会、評議員会でも監査報告がされている。財務情報の公開については、HP上に掲載し、学生、保護者はもとより一般にも情報の公開・発信を行っている。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 財政基盤の安定については、学生募集の増加が不可欠である。現在、新校舎の建築を手掛けており今まで以上の安定した学生募集の増加が望まれる。   |     |
| 参考資料              | 決算書   |     |
| I-2               | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか  | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 予算・収支計画については、予算編成における基本方針に基づいて作成している。理事会・評議員会の承認を得て決定されている。また、会計については「学校法人会計基準」に従って適正な会計処理を行っている。   | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 予算編成・収支計画において、学生数が大きな課題となる。今後も安定した予算・収支計画を作成することにおいては学生数の増加が必要である。  |     |
| 参考資料              | 予算書   |     |

| J、法令等の遵守 |                               | 評価点 |
|----------|-------------------------------|-----|
| J-1      | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4   |
| J-2      | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | 3   |

| J-1                   | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか   | 評価点 |
|-----------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 法令や設置基準の遵守については、学校法人として適切に実施、管理されている。<br>関係省庁への報告等においても適切に実施されている。  | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | コンプライアンス（法令遵守）においては、教職員の一人一人の意識向上が望まれる。   |     |
| 参考資料                  | 各種規程等   |     |
| J-2                   | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか  | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 個人情報保護、特定個人情報保護については、学内で「個人情報保護規程」「特定個人情報に関する取扱い規程」が定められており、学外への個人情報の流失を予防している。<br>学生に対しては入学時のオリエンテーション、学生授業のショートタイム等に指導している。 | 3   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 学生については、入学時、授業等で説明はするが、「携帯電話」「SNS」等を使っての情報の流失を防止するためには、学生へのきめ細かい指導が必要である。   |     |
| 参考資料                  | 個人情報保護法に関する規程等  |     |

| K、社会貢献・地域貢献 |                                 | 評価点 |
|-------------|---------------------------------|-----|
| K-1         | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4   |
| K-2         | 生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか       | 5   |

| K-1                   | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか   | 評価点 |
|-----------------------|---|-----|
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 毎年秋に実施している学園祭においては、様々な企画に地域の方々にも来校、参加をいただいております。昭和区役所とは地域活性に向けての協力提携を結び、区役所からの連携活動の場をこれまで以上に提供していただいております。  | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 従来活動を継続しながら学校の持つ知的財産を活用して社会、地域への積極的な参加をしていく情報発信を更に高めていく必要がある。   |     |
| 参考資料                  | 学園祭資料、昭和区民祭り資料<br>昭和区役所との連携書  |     |
| K-2                   | 生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか   | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>と<br>その根拠 | 対外窓口としてボランティア係（教員）を設置し、諸団体からのボランティアの申し込み受付を行っている。老人福祉施設、児童養護施設、障がい者支援施設、地元地域の商店街などを中心とした演奏会、裏方スタッフ（音響・PA）、ピアノ調律に取り組んでいる。また国際交流、社会福祉支援、地域貢献活動の様々な分野で活動をしている。 | 5   |
| 今後の課題とその<br>解決方法      | 今後は、学校の持つ知的財産を活用し、従来活動分野を継続しながらよりよい積極的なボランティア活動を支援していく必要がある。  |     |
| 参考資料                  | ボランティア活動記録  |     |

| L、国際交流 |                         | 評価点 |
|--------|-------------------------|-----|
| L-1    | 留学生の受入・派遣について戦略を持っているか  | 4   |
| L-2    | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4   |

| L-1               | 留学生の受入・派遣について戦略を持っているか   | 評価点 |
|-------------------|--|-----|
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 積極的な留学生募集を目的とした活動はしておらず、留学生自身が調べて本校に問い合わせしてくるのみに限定した募集状況である。日本人の入試と同様の入試を課しているため、日本語能力の修得が応募以前に備わっている必要がある。  | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  | 中国をはじめとするアジア諸国の楽器販売増に呼応する形で、とりわけ中国の教育機関から連携を希望する声が高まっている。具体的な受け入れ方法や指導体制作りを練る必要がある。  |     |
| 参考資料              |  |     |
| L-2               | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか  | 評価点 |
| 現状認知・評価等<br>とその根拠 | 毎年、作成する就職一覧の開示や進路指導員の企業訪問実施での情報開示で、国内企業のほとんどが本校の教育水準の高さを認識している。事実、本校に寄せられる求人も毎年増加しており、毎年秋に行う企業オーナー向けの研修会では多数の企業が参加され、本校の情報を得たがる方が多い。業界関係者から海外業者への口コミも日常的に行われているようで反応も増加している。 | 4   |
| 今後の課題とその<br>解決方法  |  |     |
| 参考資料              |  |     |

平成30年度

学校関係者評価報告書

令和2年1月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校